

アグリチャンス京丹波(株) 代表取締役

澤田敏夫さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「会社を立ち上げたのは、10年後もこの地で農業が元気に行われていてほしいと考えたから。そのために、自分の子供だけに限らず、農業経営に意欲ある人が引き継ぐ仕組みが必要と決意した」と話すのは、京丹波町の「アグリチャンス京丹波株式会社」代表取締役の澤田敏夫さん(50)だ。

同社は旧瑞穂町の中心部に位置し、周囲には水田が広がっている。3畝の水稲生産と8畝の稲刈り中心の作業受託をしていた父が亡くなり、澤田さんが引き継いだ。脱サラした40歳の時だった。先輩農家やJA京都の指導もあり、順調に経営を軌道に乗せ、今では同町を代表する大規模水稲農家に成

長した。

父の背中を追いかけて無我夢中で米作りに取り組む一方で、高齢を理由に農地を預かって欲しいという声が年々多くなってきた。

「私と父のように、親の農業を引き継いでくれることを期待して待つだけでは、瑞穂の農地は荒れてしまう。うまく農業経営を引き継げる仕組みはないのかと感じた」と澤田さんは話す。

自分の思いをJAの地域農業の担い手に向くJA担当者(愛称TACIIタック)に打ち明けると、農業経営の法人化を勧められた。

JAや行政などの指導を受け、2013年に妻や親戚、知人の農家が役員となって同社を設立。社名は、地名に加えて、農業(アグリ)にはチャンスがあるとの思いを込めて名付けた。

現在、社員一人を雇用し、水稻の基幹作業の受託15畝を含め、水稻中心の法人経営に取り組む。春先には水稻育苗専用のビニールハウス25棟を建てて良質苗の供給。このうち5割がJAの受託となっている。

法人化を機に、府の助成事業を活用して米乾燥機、色彩選別機、

もみすり機を増設。受託作業で刈り取った米も、高品質の乾燥調整をしてけると高い評価を得ている。

澤田さんは「地元から頼りになる会社と評価され、当初の目的に一步ずつ近づいていく手応えを感じる。高齢化で農業を止めようとする農家には、わが社でできるサポートを可能な限り行うので、頑張ってもらいたい。将来的には、地元の農産物をふんだんに使った農家レストランを開設する夢を持っている」と話す。

.....

■法人所在地 京丹波町橋爪絵山34の1。(電)090(1145)9531(澤田さん携帯電話)。

■法人概要 2013年2月5日設立。役員4人、正社員1人、育苗など農繁期にパートタイマー18人。経営面積11畝(主食用米「コシヒカリ」5.5畝、酒造好適米「京の輝き」3畝、エダマメ「紫すきん」と小豆「大納言」2.5畝)、農作業受託10畝(田植え、稲刈りなど)。農業機械 トラクター・コンバイン各2台、田植え機1台、色彩選別機1台、米乾燥機(32石)6台、もみすり機1台、フォークリフト2台、バックホー1台。

継承の仕組みをつくる

▶更新したばかりの米乾燥機の前で、農業への思いを語る澤田さん

